

世界史 A

Muhammad and Islam

● 基本情報

実施科目	世界史 A
実施内容	イスラームについてのクイズ&イスラームが誕生する時代について
実施規模	本校生徒 44 名+海外校の生徒 10 名
実施学年	2 年生
実施形態	グループワーク（本校生徒 4~5 名+海外校の生徒 1 名 を 10 班）
難易度	やや易
事前学習	特になし（課題研究等でイスラーム文化に触れている生徒はいる）
授業者の英語レベル	授業の解説等を概ね英語で行える
教員の使用言語	解説・指示：日本語と英語　提示資料：英語　プリント：日本語

● 設計の方針

ねらい

本校で受け入れた海外校の生徒はシンガポールの生徒ですが、シンガポールは言わずと知れた多民族国家ですので、日常的に様々な文化に触れているのではないかと思います。そういったレディネスを活かし、海外の子どもたちの異文化理解に対する感度を本校の生徒に肌で感じ取らせることはできないだろうか。そのように期待しながら、ディスカッションを通して学ぶ場を検討しました。ちょうど授業で「イスラームの誕生」の部分を取り扱う時期だったので、導入にクイズを持ってきてグループ・ディスカッションをさせることとしました。

教材設計上の工夫

普段の授業では板書をしながらプリントの空欄を埋めていく形で授業を進めています。しかし、英語と日本語を併記したプリントを製作するのは手間暇がかかりすぎますし、本校の生徒が後から勉強するときに少し見にくいかもしれません。そこで、プリントは本校生用の日本語プリントのみとし、MS PowerPoint で英語のスライドを作り、それを提示して授業を進めることにしました。

● 授業者の雑感

意外だったのですが、多民族国家（シンガポール）の生徒と言えど、宗教の歴史的な知識はさほど持っておらず、イスラームに関わるクイズはとても難しかったようです。中学校卒業時の知識で何とかやりくりしようとした本校生の方が善戦していた気がします。

クイズの後の授業では、海外校の生徒には英語で空欄補充をするように指示しました。しかし、海外校の生徒の一部は周りの本校生に習いながら日本語でプリントを埋めていたようです。せっかく、日本の授業を受けているのだから、日本語での空欄補充を体験してもらうのも良かったかもしれません。

世界史を英語で教えるということ自体は、何とか難しくはないものでした。特に学術用語（polytheism=多神教など）については、生徒が単語そのものを理解できないため、教員側がその場で単語を噛み砕いて解説しなければなりません。学術用語の言い換えを準備することは課題だと思います。

● 授業の展開

準備物

PPT、プリント「第6回世界史Aプリント」「第6.5回イスラームクイズ」

生徒の持ち物

筆記用具、教科書、図説

時間	教員の活動	生徒の活動
0分	班分け 自己紹介の指示 (5分程度)	本校生 44 名を 4~5 人ずつの班に予め分け、 海外生に 1 人ずつ入ってもらう。 Point! 自己紹介もガイドしてやる 自己紹介をさせるが、「自己紹介しましょ う」と言っても緊張で何も話せない人が出 てくる。なので、Favorite Things など話の ネタ (テーマ) を振ってやる。
5分	① Islam Quiz! プリントを配付し、クイズについて説明 班ごとに、イスラームに関する 14 のクイズを 答えさせる。	班で協力してクイズに答える。 互いにどれだけの知識があるかを知る。
15分	正解の発表。 最も成績の良かった班を表彰。	
20分	② Muhammad and Islam(授業本題) パワーポイントに授業プリント(日本語)の英 訳を表示。	パワーポイントを見ながらプリントを埋めて いく。 必要に応じて、班内で教え合う。
45分	教員側によるまとめ。 使用した PPT ファイルを印刷したものを CHS 生に配布。	授業の内容について豊高生と CHS の生徒で やり取りや意見交換を行う。
50分	授業終了	お互いに挨拶をして終了。